



**Asia-Pacific
Economic Cooperation**

QUALITY ASSURANCE
of ONLINE LEARNING
TOOLKIT

APEC Project: HRD 14 2016S

Produced by
The University of Melbourne
Victoria 3010
Australia
Tel: (61) 3 9035 5511

For
Asia-Pacific Economic Cooperation Secretariat
35 Heng Mui Keng Terrace
Singapore 119616
Tel: (65) 68919 600
Email: infor@apec.org
Website: www.apec.org

© 2019 APEC Secretariat

APEC# 219-HR-01.5



Australian Government
Department of Education



Australian Government
Department of Education
Tertiary Education Quality
and Standards Agency



THE UNIVERSITY OF
MELBOURNE

This discussion paper and toolkit were commissioned by the Department of Education and Training and the Tertiary Education Quality and Standards Agency (TEQSA), with research assistance from the Melbourne Centre for the Study of Higher Education at The University of Melbourne.

The views expressed in the document are not necessarily the views of the Australian Government.

目次

はじめに	4
領域1：リーダーシップとマネジメント	10
領域2：スタッフの配置とプロフェッショナル・デベロプメント（PD）	12
領域3：レビューと改善	14
領域4：リソース	21
領域5：学生向け情報と支援	23
領域6：学生の体験	25
領域7：カリキュラム設計	27
領域8：アセスメントと完全性	29
領域9：学習成果	32
まとめ	34
参考文献	35

はじめに

本ツールキットは、この10年間でAPEC諸国において拡大してきた高等教育のオンライン教育やブレンド型教育に対応するため作成されました。

本ツールキットは、幅広いステークホルダーの協力を得て作成されました。2016年、APEC加盟13か国の政府、質保証機関、高等教育機関の専門家が参加し開催されたAPEC オンライン学習質保証ワークショップ（APEC Quality Assurance of Online Learning）において、ツールキットの草案が議論され、詳細が詰められました。翌2017年には、ベトナム、インドネシア、メキシコでワークショップが開催され、さらに検証が行われました。これらのワークショップで議論された内容が、本ツールキットに反映されています。

オンライン教育の手法が進展し多様化する中で、このような新しいオンライン教育の形態が、価値や質を損ねることなく高等教育を提供し、授与される資格の妥当性を確保していくことが非常に重要となっています。また、オンライン技術が従来の教育・学習に組み込まれ、一体化されていく中で、教育の提供形態にかかわらず、高等教育の成果が認識されることが重要となってきています。

多くの国々で所管省庁が、オンライン教育やブレンド型教育の質保証に向けた取り組みを進めています。オンライン教育が、高等教育の質に関わるシステムの末端でしか扱われていない国々がある一方で、オンライン教育やブレンド型教育を既存の質保証のシステムに組み込んで検討している国もあります。

本ツールキットは、統合的な質保証のモデルに対応しており、各領域はどのような教育の提供形態にも適用できます。ただし本ツールキットは、各領域においてオンライン教育またはブレンド型教育に特化した質保証の一つのアプローチを提供するものです。

各領域は全体として、オンライン教育とブレンド型教育における「質の高い文化」のビジョンを示すものです。

本ツールキットは、教育機関によるオンライン教育およびブレンド型教育に関する既存および新たな研究結果を参考に作成されています。オンライン教育やブレンド型教育特有の質評価手法を認識した、外部や地域の質保証システムは、教育機関の質に刺激を与えるものです。

また本ツールキットの作成にあたっては、高等教育の質保証のフレームワーク、ループリック、評価基準、システムなどを幅広く検討しました。その中には、後述の4つの国レベルのオンライン教育・ブレンド型教育の評価アプローチや、教育提供形態を問わないプログラム評価のフレームワークも含まれています。

ケーススタディ

Quality Matters: アメリカ

質保証の専門家で構成される非営利組織のQuality Mattersは、国内外のオンライン教育と学生の学習の質を向上させるために活動しています。Quality Matters Frameworkは、オンライン教育とブレンド型教育のコース設計に関する、専門家向けの質評価ツールとして幅広く知られており、Quality Matters Rubricを用いてコースの質を評価し、教育機関に改善のためのフィードバックを提供するものです。Quality Mattersに提出された各コースは、1名のマスターレビュアーと2名のピアレビュアー（うち1名は外部のレビュアー）で構成されるチームによって審査されます。

Quality Matters Framework

The Quality Matters Framework は8項目の質の水準で評価されます：

- » コースの概要と紹介
- » 学習目標（能力）
- » アセスメントと測定
- » 教材
- » コース活動と学習者間の交流・接触
- » コース技術
- » 学習者への支援
- » アクセシビリティとユーザビリティ

出典： www.qualitymatters.org

アジア公開大学連合（AAOU） 質保証フレームワーク

アジア公開大学連合（AAOU）は、オープン教育と遠隔教育を中心とする高等教育機関の非営利団体です。アジアのすべての人々のために教育の機会を拡大し、教育機関における教育上の管理や教授法、研究の質を向上させることを目指しています。

AAOU Quality Assurance Framework は 9 つの要素で構成されており、各構成要素にはベスト・プラクティスの説明が記述されています。9つの構成要素は以下の通りです：

- » 方針と計画策定
- » 内部管理
- » 学習者と学習者のプロフィール
- » インフラ、メディア、学習リソース
- » 学習者のアセスメントと評価
- » 研究とコミュニティサービス
- » 人的資源
- » 学習者支援プログラムの設計とカリキュラム開発
- » コース設計と開発

出典： aaou.ouhk.edu.hk

オンライン学習プログラムのア kredィテーション（適格認証）へのアプローチ：中国、香港

香港（中国）では、質の高いオンライン学習プログラムに対する需要が高まっており、香港学術及職業資歴評審局（HKCAAVQ）は、香港および域外のオンラインプログラムのア kredィテーションについて、以下のようなアプローチを開発しました。

オンラインのプログラムでは、以下の要素の審査が求められます：

(a) 教授法と学習 運営者は、オンライン教育またはブレンド型教育が、意図した学習成果とプログラム内容を提供するものだという証拠を示さなければならない。同時にプログラム開発スタッフは、当該の教授法や学習方法の選択理由と、そのオンライン配信との親和性について説明できなければならない。

(b) 学生のアセスメント（成績評価） 学生の学習成果をモニタリングする技術を用い、運営者は、1) 形成的評価と総括的評価のバランスが適切に保たれている、2) 意図した学習成果と要求水準の達成を評価する上で適切な評価方法が実施されている、3) 学習の進捗状況を追跡しタイムリーにフィードバックが行われているという証拠を提供しなければならない。またアセスメントの結果は、学習アナリティクスを通じて学習成果の達成度や教育水準の維持状況を査定することで、評価することが求められる。プログラムに登録されている学生が評価課題を完了した学生と同じ学生であることを保証するため、学生の身元を認証するための効果的な仕組みとインフラを設置しているという証拠を提供しなければならない。

(c) 学生支援サービス 運営者は、学生が学習の上で柔軟に時間や場所の制約を受けず管理面での支援や学業および技術的なサポートが受けられるよう、信頼性が高く実行可能な電子学習管理プラットフォームを利用できるように提供しなければならない。

(d) 教職員の配置とスタッフ・デベロプメント（SD） 運営者は、教職員が電子学習プラットフォームに関する知識を習得し、オンラインでの教授法、学習、アセスメントに関わるコースコンテンツを設計する能力が獲得できるという証拠を提示しなければならない。さらに教職員は、学習アナリティクスの結果を解釈し、教育、学習、アセスメント活動の有効性を評価する能力が求められる。必要なスキルを有さない教職員について運営者は、当該の教職員に能力育成の機会が与えられているという証拠を提供しなければならない。

(e) 財務基盤および施設・設備 オンライン教育では、全ての関係教職員の継続的な職能開発、新規のアカデミックスタッフ・教員、管理職員および技術職員の確保、さらにホスティングやメンテナンスなど対し、十分なリソースを確保する必要がある。したがって運営者は、オンライン配信用の電子学習プラットフォームに対する新規立ち上げと継続的な投資にかかる十分な資金があるという証拠を提供しなければならない。また継続的なメンテナンスに関しては、学生の学習パターンに合った時間枠で学習をサポートできる、信頼性の高い電子学習プラットフォームが利用可能であるという証拠を提供しなければならない。

(f) 質保証 テクノロジーを用いることで運営者は、学習アナリティクスから学生の学習に関する多角的な情報を得て、継続的な改善につなげることが可能となる。このことから運営者は、学習アナリティクスを利用し、学習目標に向けた進捗などオンライン学習プログラムの有効性を評価し、その結果を学習成果の達成度向上のために利用しているという証拠を提供しなければならない。

出典： www.hkcaavq.edu.hk/en/services/accreditation

質保証に関する統合的アプローチ：マレーシア

マレーシア質保証機構（MQA）は、国内の高等教育における統合的な実践規範を策定しました。この実践規範は、教育の提供方法にかかわらず適用されるもので、国際的な優良事例を対象にベンチマーク比較されており、ステークホルダーとの協議を通じ国内で受け入れられています。この実践規範では、9つの主要分野における基本的要求事項の指針が示されています。

マレーシアの9つの質保証基準

ビジョン、ミッション、 目的、学習成果	カリキュラム設計・提供	学生の達成度評価
学生の選抜・ 学生への支援サービス	教員	教育資源
プログラムのリーダーシップ・ 管理運営	プログラムのモニタリング及び 点検・評価	継続的な質の改善

出典： www.mqa.gov.my/PortalMQAv3/red/en/qa.cfm

質の高い高等教育のためのブレンド型学習：アジア太平洋地域における実践の事例研究

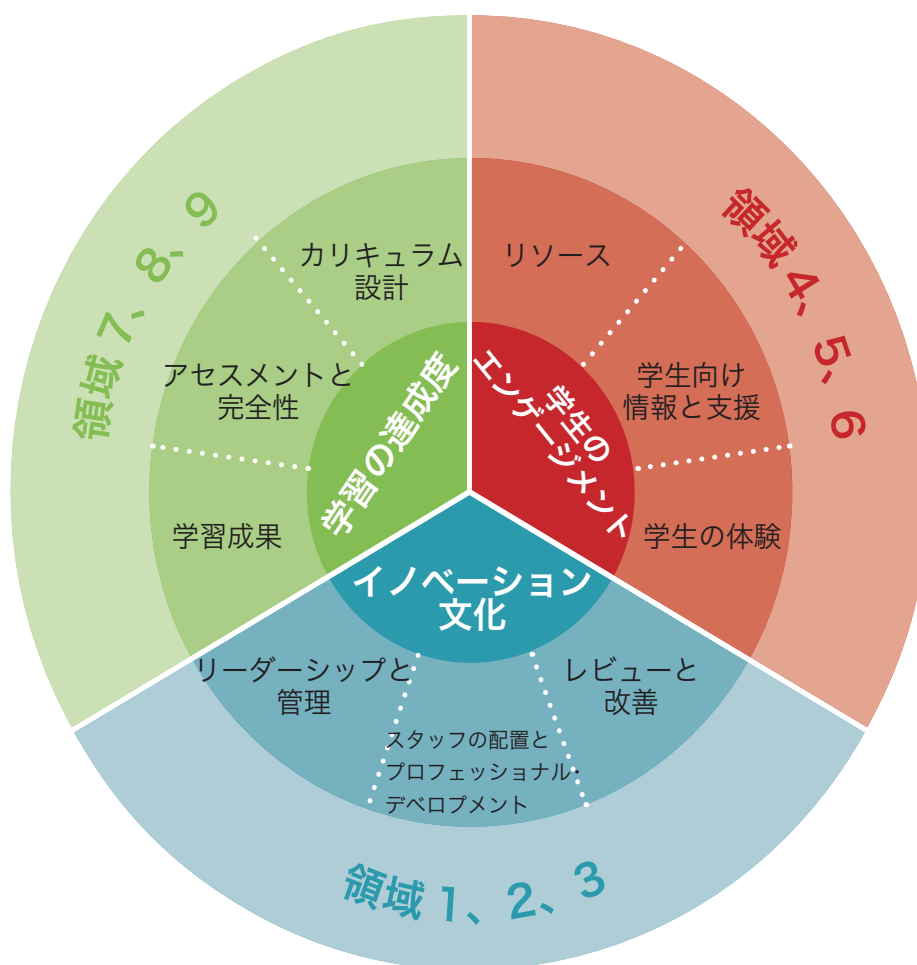
ユネスコ・バンコク事務所は、香港教育大学（EduHK）と共同で、高等教育機関（HEI）を対象とするブレンド型教育の能力構築を目的とした2年間のプロジェクトを開始しました。「質の高い高等教育のためのブレンド型学習」は、フレームワークと自己評価ツールで構成されており、ブレンド型学習の推進、維持、拡大ために、教育機関の能力を開発するという包括的な視点で策定されました。このプロジェクトには、地域の経験豊富な高等教育機関におけるフレームワークと次元（dimensions）の運用事例や、自己評価で明らかになったギャップへの対応事例などが含まれています。

出典：

<http://bangkok.unesco.org/content/blended-learning-quality-higher-education-selected-case-studies-implementation-asia-pacific>

本ツールキットと各領域は、議論を促進し、政策、規制、教育機関の各レベルで、一貫性のあるオンライン教育の質保証を策定するための手引きとして作成されました。本ツールキットは以下の5つの要素で構成されています：

- » 領域：教育機関での実践における評価可能な分野
- » 原則：優良事例についての陳述的な説明
- » 研究結果：実践で効果が試され質が確認されたモデルの概要
- » 着目点：教育機関での実践に対する重要な問い
- » 証拠：原則の実践への応用の実証



出典：Adapted from Ossiannilsson 2012

質の領域 (Domain)

領域（図 1）は、オンライン教育やブレンド型教育に関し、教育機関の実践分野で質保証の実務家が評価できる領域を表しています。これらの領域は、高等教育の実践の中で互いに連携し合う個別の運営上の要素であり、外部機関による評価が可能で、教育機関の内部のシステムに統合されています。これらの領域は、大多数のフレームワークが3つの領域と6つの次元から構成されるという、質のモデルのメタ分析から見出された研究結果とも一致するものです。

各領域は、教育機関の実践分野から作成されました。これらの実践分野は階層的に順序づけされるものではなく、同様に領域も階層的順序付けを行うのは相応しくありません。つまり、領域はすべて等しく重要なものです。本ツールキットでは参照上の簡便さを図るため領域に付番をしていますが、これは順序や階層を示唆するものではありません。

最後に、内側の円に位置する以下の3つの項目

- » 学習の達成度
- » 学生のエンゲージメント
- » イノベーション文化

は、静的に固定されたものではなく、すべての領域に適用されます。

ツールとリソース

本ツールキットには、既存のリソース、実例、事例研究など、オンライン教育の質保証に対する一貫したアプローチの構築に資する、多くのツールが含まれています。本ツールキットは、利用可能なすべてのリソースを網羅することを意図するものではなく、将来的に新たなリソースが追加される可能性もあります。さらに、ツールキットを導入する国の文化やコンテキストを考慮し、これに応じた領域を追加することも可能です。

領域1：リーダーシップとマネジメント

原則

リーダーシップとマネジメントは、戦略計画の策定やパフォーマンス指標の設定、さらに教育機関内部の質文化に影響を与えることで、質の高いオンライン教育やブレンド型教育の実現を積極的に支援する。

研究結果

- » リーダーが積極的に支援しなければ、教育機関は質の高いオンライン教育のプロバイダーとしての地位を築けない。
- » テクノロジーを活かした授業や、学習のイノベーションを重視する文化を醸成するためには、リーダーが影響力を発揮しなければならない。
- » オンライン学習やブレンド型学習のため、すべてのレベルのリーダーやマネージャーが、スタッフ、インフラ、システムへの投資を決定する必要がある。

着目点

- » 教育機関のミッション、目的・目標に、質の高いオンライン教育やブレンド型教育の提供が含まれているか。
- » リーダーは、オンライン教育やブレンド型教育の質保証について認識しているか。
- » 教育機関の質保証方針などの重要文書に、オンライン教育やブレンド型教育の実施規定が含まれているか。
- » オンライン教育やブレンド型教育の質や管理に責任を持つ、専任のリーダーシップ職や部署があるか。

証拠

- » 戦略計画などの重要文書には、質の高いオンライン教育を提供するためのビジョンが盛り込まれている。
- » オンライン教育の分野の専門家であるリーダーがスタッフに配置されている。
- » 教育機関の予算には、オンラインのインフラやシステムへの投資が反映されている。
- » オンライン教育やブレンド型プログラムの定期的なレビューに対し、タイムリーな対策が講じられている。
- » 教育機関は、オンライン学習のケイパビリティを提供するため、適切な専任のスタッフを配置している。

フレームワークの例：領域1

組織のオンライン教育に対するビジョンの評価フレームワーク

フレームワークの例：領域1 教育機関のオンライン学習に対するビジョンの評価フレームワーク					
ビジョンと原則					
	教育機関の教育におけるICTビジョン	ICTを用いた教授法と学習に関する基本的考え	学校や社会のニーズ	教育におけるICTビジョンの策定とオーナーシップ	教育におけるICTビジョン策定のレビュー
不十分	教育機関としての教育におけるICTビジョンがない	教育機関としてICTを用いた教授法や学習に関する基本的考え方がない	学校や社会のニーズや状況分析が行われていない	教育におけるICTビジョン策定にスタッフが関与していない	教育におけるICTビジョンのレビューが行われていない
基本レベル	ビジョンは存在するが、既存の文化、ポリシー、実践を支えるICTの利用に限定されている	ICTを用いた教授法や学習に関しては行動主義や認知主義のパラダイムに基づく伝統的な考え方を有している	既存の文化、ポリシー、実践に限定された学校のニーズにより、教育におけるICTに対する教育機関としてのビジョン構築が制約を受けている	教育におけるICTビジョン策定にスタッフが関与しているものの、オーナーシップは持っていない	教育におけるICTビジョンのレビューは、決められた業務スケジュールを基本となっている
卓越レベル	ICTを通じて、文化、ポリシー、実践を基盤することに焦点を置いたビジョンが存在する	基本的なICTを用いた教授法や学習に対する考え方は進歩主義的であり、構成主義、社会的構成主義のパラダイムに則っている	ICTに対する教育機関としてのビジョン構築において、変化する学校や社会のニーズに合わせる程度まで対応していくためのサポートとなっている	教育におけるICTビジョン策定にスタッフが参画し、ビジョンに対するオーナーシップが培われている	教育におけるICTビジョンのレビューは基本的に受動的であり、変化する学校や社会のニーズに対応するために実行されている
革新的	他の教育機関から研究され、模倣されるようなビジョンとなっている	ICTを用いた教授法や学習に対して、知識創造のパラダイムに則った、新しい考え方を基本としている	変化する学校や社会のニーズは完全に教育機関の教育に統合されておらず、ビジョンによって学校が社会のニーズを満たすことにつながっている	スタッフは教育におけるICTビジョン策定について権限移譲されており、動的に進化してゆくビジョンに貢献するメンバーとなっている	教育におけるICTビジョンは積極的に先見の明を持って（将来的に予測し、時代の先取りの姿勢で）レビューすることを中心としており、このため、他の教育機関が追隨してレビューすきつかけとなっている

出典：Lim C P, Chai C S and Churchill D (2010)

領域2：スタッフの配置と プロフェッショナル・デベロPMENT（PD）

原則

オンライン教育やブレンド型教育の教授、管理、サポートに携わる教職員は、学生の学習成果達成を支援するために必要な資格、知識、スキルを有している。

要な時に直接オンラインでやりとりができる環境を重視している。

図2：「考慮すべき障壁」は、オンライン教育の効果的な実践に対する障壁の例を示している。

研究結果

- » オンライン教育の学生が期待される学習成果を達成するためには、適切な人員配置が重要である。
- » オンライン教育では、技術的なスキルやコミュニケーション能力など、従来の対面式教育とは異なるスキルが求められる。
- » オンライン教育に参加する教員の数が増えるほど、オンライン教育の質に対する認識が高まる。
- » 大学教員のプロフェッショナル・デベロPMENT（PD）は、組織的な変化を促し、ひいてはオンライン学習に対するポジティブな認識の醸成に寄与するものである。
- » オンライン教育の学生には、技術的サポートと学問上のサポートが必要である。学生は、大学スタッフと必

着目点

- » PD戦略は、大学教員がオンライン教育の学生とエンゲージメントを高められるように設計されているか。
- » 人材配置は、教育の各実施形態で目標とされる学習成果の実現に資する、適切なものになっているか。
- » 技術職員と大学教員は、オンライン学習の教育学的側面と技術的側面の両方を理解するための訓練を受けているか。
- » オンライン環境は、サポートスタッフ、大学教員、学生間のコミュニケーションを促進するものとなっているか。

図2：考慮すべき障壁

オンライン教育・ブレンド型教育における教育上の障壁

教育機関（あるいは地域）によっては、教員の技術的スキル習得に障壁がある場合がある。

これらの障壁には以下のような例がある：

- » 教育のあり方に対する信念からオンライン教育を受け入れられない
- » 教員の「教授法」に関する深く根ざした考え方を変えることが困難
- » 教員が技術の進歩のスピードについていけない
- » オンラインの学生との教育上の交流を行うために必要な時間とエネルギーを過小評価している
- » 持続的な変化をもたらすために必要な時間とエネルギーを過小評価している

証拠

- » オンライン教育を対象とする教職員の新任研修、研修、人材育成の機会が、教育機関の方針や取り組みとして正式に設定されている。
- » オンライン環境で学生が教職員にアクセスしエンゲージメントを行う時間が、教職員の雇用契約に含まれている。
- » 人材計画に、オンライン教育の専門スキルと経験を有する教職員の配置が明記されている。
- » 予算には、オンライン教育のための大学教員・技術サポートスタッフの費用と、PDに要するリソースが反映されている。
- » 学生のオンライン学習に関する評価には、教授法の質に関するフィードバックが含まれている。
- » 教職員は、オンライン環境での優れた教授と学習、学生とのエンゲージメントで認められている。
- » オンライン教育のための能力開発への投資は測定可能であり、教職員のオンライン教育に対する専門知識向上につながっている。

事例研究：領域2

オンライン教育のPDの実例（アメリカ）

オレゴン大学：E-Teacher奨学金

E-Teacherは、米国国務省（US DOS）のプログラムで、教育文化局が資金を提供し、英語言語プログラム課（Office of English Language Programs）が運営しています。オレゴン大学（UO）のアメリカン・イングリッシュ・インスティテュート（AEI）の運営により、2015年12月を通してE-TeacherプログラムとPD交流が実施されました。奨学金授与やPD交流参加者の決定、および関連する基準の設定などは米国国務省が行いました。

出典：eteacher.uoregon.edu

Learning to Teach Online（オンライン学習教授法コース）

Learning to Teach Onlineプロジェクトは無料のPDリソースで、あらゆる学問分野の教師がオンライン教育の経験の有無に関わらず、それぞれの教育環境に合わせ効果的に実践で活用できるオンライン教授法についての知識を提供します。

出典：olt.gov.au/resource-learning-teach-online-unsw-2011

領域3：レビューと改善

原則

パフォーマンスデータと学生を含むステークホルダーからの幅広いフィードバックは、計画的な定期レビューに反映されている。

研究結果

- » オンライン教育やブレンド型教育が、高等教育の一部として取り込まれていく中で、教育機関の評判を高め、学生を惹きつけ、学生が確実に学習成果を出していくためには、定期的なレビューと改善が必要である。
- » オンライン教育やブレンド型教育の質保証モデルは、教育の提供形態に応じた具体的アプローチを追加することで、既存の内部質保証のフレームワークに統合することが可能である。
- » レビューと改善では、サービスの提供、指導・学習、教職員配置と管理など、あらゆる面からの情報を活用するホールシステム・アプローチが求められる。
- » オンライン教育・ブレンド型教育の学生は、デジタル・フットプリントや学習活動の証拠を残すことになり、これを収集して内部質保証に活かすことができる。
- » データ収集には、収集されたデータの分析と継続的な改善活動が伴わなければならない。

着目点

- » オンライン教育・ブレンド型教育プログラムは、アクセスやユーザビリティ、コース設計、情報の提供などについて定期的にレビューされているか。レビューでは支援サービス、リソース、教職員の配置についての評価が行われているか。
- » ステークホルダーからフィードバックを得るための活動が計画され実施されているか。
- » 教育機関のリーダー、マネジャー、教職員は、オンライン教育・ブレンド型教育コースの質保証プロセスを認識しているか。

- » 学生は、オンライン教育・ブレンド型教育に関する継続的なフィードバックの提供を奨励されているか。学生は実際に内部の学生アンケートに参加しているか。
- » 教育機関内でデータ収集、分析、報告を委任された部署、チーム、あるいは個人が存在するか。
- » リーダーやマネジャーは、教育機関内でのオンライン教育・ブレンド型教育のレビューと改善を実証する報告書を受け取っているか。
- » オンラインコースの見直しと改善には、様々な課題を考慮しなければならない。

図 3：克服すべき課題は、これらの課題の概要を示している。

証拠

- » 内部質保証は、教育機関の方針と権限の委譲により統治されている。
- » 内部監査の文書に、計画的な定期レビューとデータ収集に関する記述がある。
- » 教職員は、学習管理システム上でのオンラインデータ収集を含め、オンライン学習の環境提供に関連する問題を特定し、対処するための適切なスキルと経験を有している。
- » フィードバックに対応し実施されたレビューや改善については、教職員や学生に幅広く報告されている。
- » アカデミック・ボードミーティングの議事録（またはそれに相当するもの）は、フィードバックやデータが適切な期間内にコースの変更や改善策の形で対応されていることを示している。
- » 図 4：質保証レーダーチャートは、質保証フレームワークを構築する際に考慮すべき重要な要素を示している。
- » デベロプメントや改善に関する国の詳細な政策（国の政策がある場合）の反映なども証拠として考慮できる。

図3：克服すべき課題

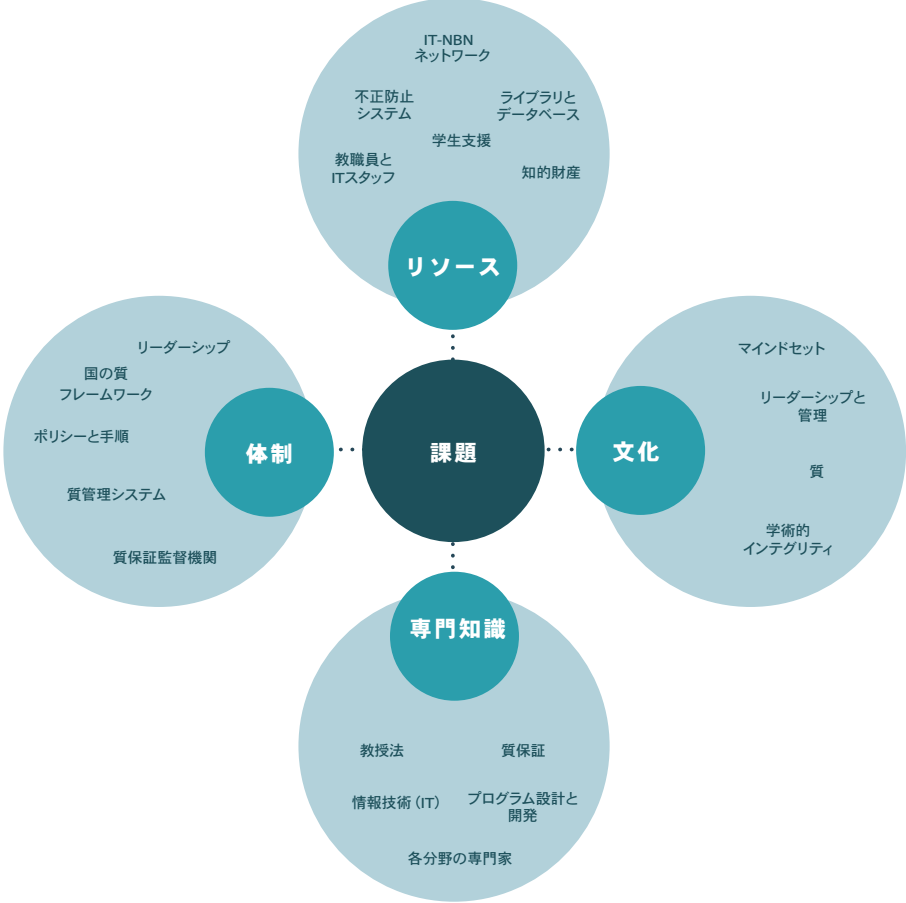
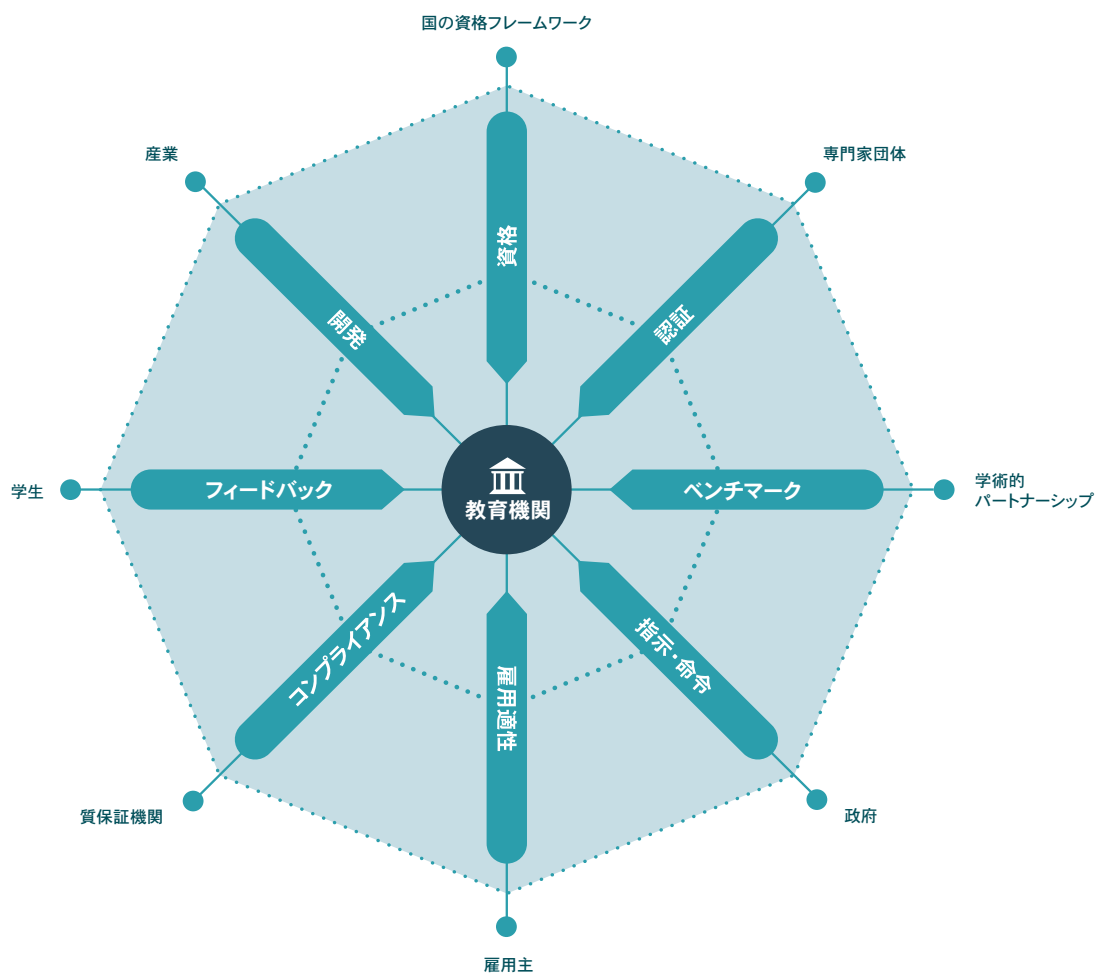


図4：質保証レーダーチャート



事例研究：領域3

オンライン教育：メキシコ

メキシコでは、オンライン教育の評価は高等教育大学間評価委員会（CIEES）が行っています。

評価の主要項目は以下の通りです：

1. 規制や学術的プログラムの計画策定の評価
2. アセスメントの構築とプログラムの結果
3. 学術のプロセスと、そこから得られる情報の評価
4. 学術面の事務管理の評価

出典： www.ciees.edu.mx/index.php/ingles/whats

質保証のアプローチとオンライン学習の認証：インドネシア

国立高等教育アクレディテーション機関（NAAHE/BAN-PT）は、インドネシアの通信制大学（テルブカ大学）の教育プログラムの認証をしています。NAAHE は、対面学習とオンライン学習の両方に適用される、ひとつの統合された質保証フレームワークを導入しています。一方、オンライン学習のみで検討される要素もあります。ガバナンスでオンライン教育認証機関がどのように考慮されているかや学生の修了率、オンラインモジュールを開発するための専門スタッフ、学生の費用などがその一例です。

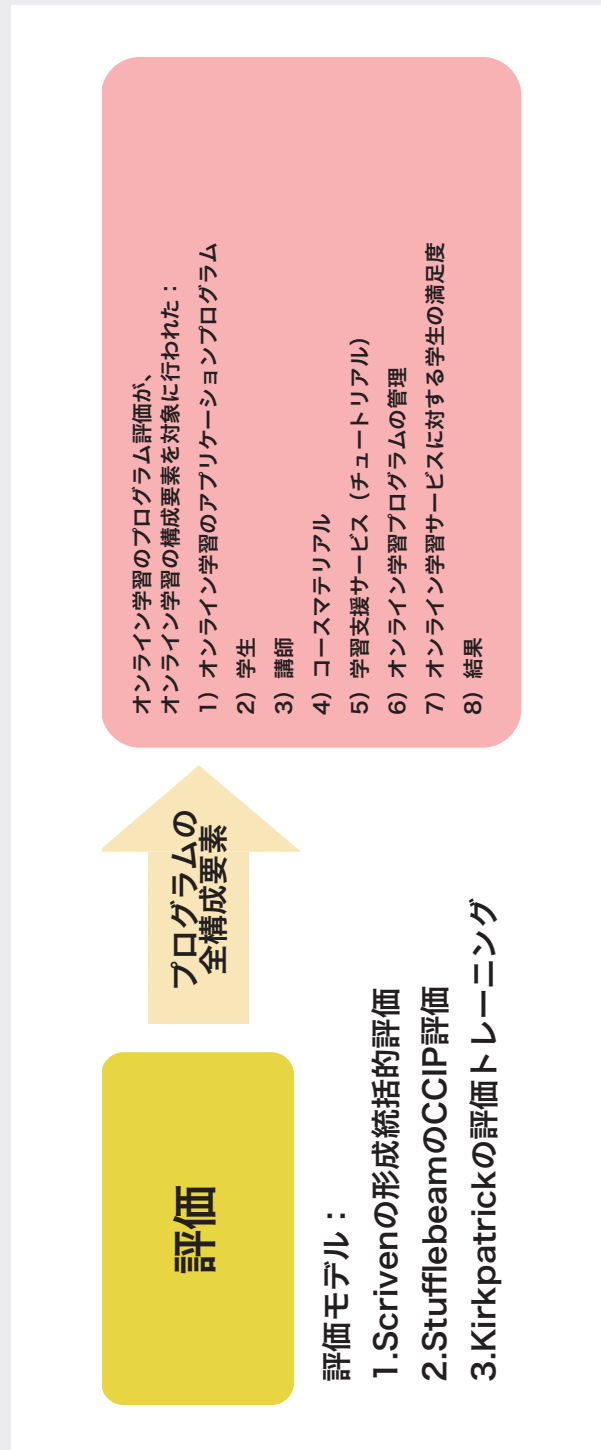
NAAHE の認証に加えてテルブカ大学は、すべての産物と活動の質を担保するため、質保証システム（SIMINT-AS）を開発しました。SIMINTAS UTは、アジア公開大学連合質保証フレームワーク（QA AAOUフレームワーク）をベースに作成された質保証の方針であり、9つの項目と、優良事例の簡潔な説明から成る107の小項目で構成されています。

出典： RISTEK DIKTI, Indonesia

実例：領域3

プログラムの評価：研究・技術・高等教育省 インドネシア

例：オンライン学習の項目に沿って実施されたオンライン学習のプログラムの評価



実例：領域3（続き）

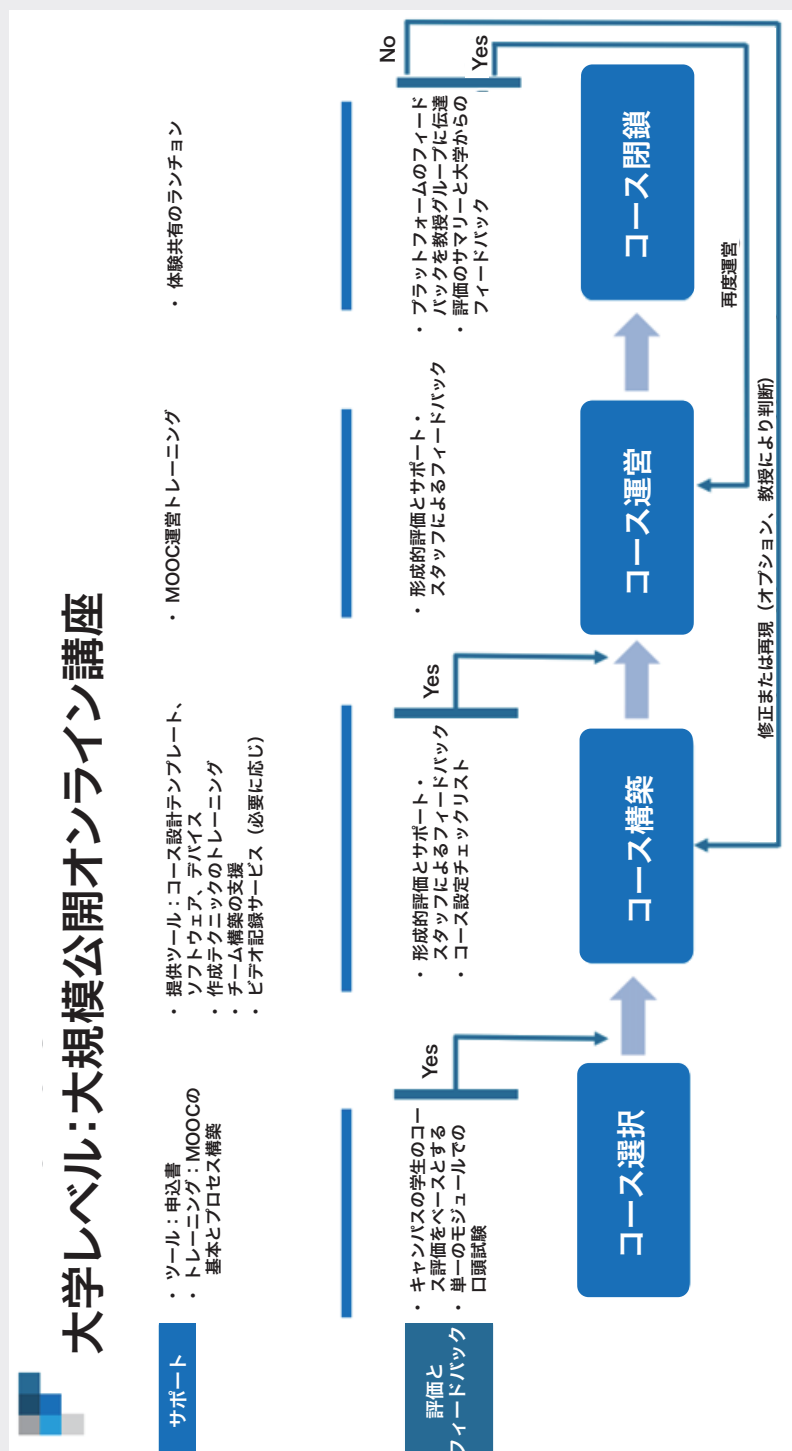
オンライン学習プログラムのプログラム評価モデルは、下記の3つのモデルを組み合わせたものです：

- » Donald L Kirkpatrickの 学習評価モデル： Kirkpatrick, D L 1994 Evaluating training programs: the four levels, San Francisco, Berrett-Koehler
- » Daniel Stufflebeamによる CIPP モデル（文脈、入力、過程、産物）： Stufflebeam, Daniel L and Zhang G 2017 The CIPP Evaluation Model: How to Evaluate for Improvement and Accountability, Guildford, USA
- » Michael Scrivenによる ゴールフリー評価アプローチ： Scriven, Michael 1991 Evaluation Thesaurus, Sage Publications, USA

出典：インドネシア 研究・技術・高等教育省

実例：領域3

実例：北京大学の大規模公開オンライン講座（MOOCs）の開発・レビュープロセス



出典：北京大学

領域4: リソース

原則

すべての学生に場所を問わずアクセス可能で、信頼性が高く、互換性のあるオンライン教育が提供できるよう、必要な技術、デジタル・インフラが十分に整備されている。

研究結果

- » 質の高いオンライン教育を提供するためには、信頼性の高い適切な技術インフラが必要。
- » インターネットアクセスのばらつきが大きい場合、国や地域のインフラに制約がある可能性がある。
- » オンライン教育・ブレンド型教育の学習環境では、教育機関の学習管理システムや、第三者のシステムなど他のテクノロジーを活用した学習ツールの利用が増加している。
- » 学生が教室に自分のデバイスを持ち込む事例が増えて来ており、学習支援ツールとしての技術の活用に大きな機会があることが示唆されている。

着目点

- » オンライン学習やブレンド型学習を支える技術インフラに対する投資は予算や将来予測に反映されているか。
- » 学生は学内外で、互換性の高いコンピュータシステムやネットワークにアクセスできるか。
- » 在籍生および将来の学生は、オンライン学習が自分のニーズに合っているか判断するための十分な情報を得られているか。
- » 教育機関はすべての学生に、適切かつ十分なインターネットアクセスを提供しているか。
- » オンライン学習・ブレンド型学習では、学生向けのラーニング・システムにコンテンツをアップロードすることだけに終始していないか。
- » 適切な学習リソースや学生向けの情報はオンラインで利用可能か。
- » オープン教育リソースは活用されているか。

証拠

- » 教育機関の予算は、適切な技術インフラへの投資を反映している。
- » オンライン教育リソースやソフトウェアツールのサブスクリプションやライセンスが購入されている。
- » キャンパス内のスペースは、デバイスの充電ができるコンセントや安定したWi-Fi 接続など、オンライン技術の使用に対応している。
- » 試験やカリキュラムで試験監督が必要な項目など、訓練を受けた評価者の立合いが必要な場合や対面式の試験対応のため、分散リソースセンターとの契約が行われている。
- » リソースは学部間で共有され、能力開発が実施されている。

リソースのベンチマーキング：領域4

公開学習、遠隔学習およびEラーニングに関する

南大洋評議会（ACODE）技術支援学習（TEL）のベンチマーク

ACODEベンチマーク（2014）は、質の高い技術支援教育（TEL）の学習体験が提供されるよう教育機関を支援することを目的に作成されました。ベンチマークは8項目で形成されており、各項目を単独の指標として使用することも、全ての項目を合わせて教育機関全体の状況を把握することも可能です。

The ACODEベンチマークは、教育機関におけるオンライン学習の各要素に対するベンチマーク評価を支援し、レビューと改善の文化の醸成を促進させるものです。

オンラインの「ベンチマークツール」は教育機関に、自己評価結果とACODE Benchmarks for Technology Enhanced Learningの統合データを格納した使いやすいインターフェイスを提供します。このツールでは漸次ベンチマーク評価が集積され、データの振り返りが可能です。ツールには以下の機能が含まれています：

- » 教育機関・ユニットの概要
- » 教育機関の教育用の技術のスナップショット
- » 全教育機関のプロフィールと技術のスナップショットのビュー
- » 自己評価とチームの総合的評価のベンチマーク
- » 教育機関別ベンチマーク比較
- » 各教育機関のベンチマークのパフォーマンス指標のビュー
- » 匿名化されたレポートのエクスポート

出典： www.acode.edu.au/pluginfile.php/579/mod_resource/content/4/TEL_Benchmarks.pdf

領域5：学生向け情報と支援

原則

技術、教育、また個人的に追加的なサポートを必要とする学生を特定する仕組みが導入され、モニタリングが行われている。また学生もサポートシステムの存在を認識している。オンライン学習に関する情報は明確で信頼性が高く、アクセス可能で定期的に更新されており、在籍生と入学予定者の両方が利用できる。

研究結果

- » 学生のフィードバックから、質の高いオンライン学習において最も重要な指標は、スタッフへのアクセスだといえる。学生は、電子メールや電話で教職員に連絡し支援が得られる機会を重視している。
- » デジタル技術の使用によって、学生に直接かつ迅速なフィードバックを提供する機会が生まれる。
- » 質の高い参加の重要性を強調する明確なガイドラインがなければ、学生は意図した学習成果の妨げとなるような手段を使ってしまう可能性がある。
- » オンラインの学生へのアカデミック・スタッフからのサポートは、対面での体験と同様に重要である。
- » オンライン学生は、対面の学生とは異なる特殊な学習上の課題に直面する可能性がある。このため学生支援は、テクニカル、アカデミック、パーソナルサポートなど、幅広いサービスを考慮に入れなければならない。
- » すべての学生が、オンライン教育における要件や準備方法など必要事項を明確にした情報に、アクセスができればならない。

着目点

- » オンライン学習の学生は、教育機関の学生支援サービスが利用できるか。コミュニケーション方法は、オンライン学習・ブレンド型学習の学生に適しているか。
- » 教育機関のウェブサイト、プラットフォーム、学習管理システムには、学生が各種支援サービスに誘導されるよう、明瞭な情報アクセス可能な形で提供されているか。
- » 教育機関は、ログインパターンをモニタリングするアナリティクス・アプリケーションや、言語や技術的な習熟度などの人工統計学的情報など、ハイリスクの学生を特定する仕組みを持っているか。
- » 学生はオンライン・プラットフォームを用い、教職員に連絡することができるか。
- » 学生は、オンラインコースに関する正しい情報に入学前からアクセスでき、オンラインコース入学に必須となるスキルを有しているか？

証拠

- » 落第や中退のリスクがある学生を支援するため、いつ教育的介入が必要かが方針に規定されている。
- » 学生のエンゲージメントやパフォーマンスのデータで、オンライン学習・ブレンド型学習における学生の定着状況がモニタリングできる。
- » 学生は、学生支援の仕組みに対するフィードバックを提供している。
- » 学生に対するオンラインでの行動とエチケットのガイドラインは、ポジティブなインタラクションを促進している。
- » チャットルームや他のインタラクティブな機能は、教職員がモデレーターとなり活用されている。
- » 中退者や他のプログラムへ転籍した学生には、出口調査を実施している。
- » 学生のフィードバックは、オンライン教育の配信や学習前から学習中に提供される情報の妥当性について触れている。

事例研究：領域5

ウェブ・コンテンツ・アクセサビリティ・ガイドライン

オーストラリアの高等教育における技術の利用で考慮すべき重要事項は、障害の有無にかかわらず学生がオンライン学習にアクセスし、参加できるかということです。技術の利用は、特定の障害を持つ学生に教育への扉を開く機会になりますが、学習リソースやアクティビティは、スクリーン・リーダーなどの支援技術との互換性をも担保して構築することが重要です。ウェブ・コンテンツ・アクセシビリティ・ガイドラインは、教育用アプリケーションやシステムが準拠すべき最低限のアクセシビリティ基準についてのガイダンスを提供するものです。ただし、各国で独自の基準が設けられている場合もあります。

出典： www.w3.org/WAI/intro/wcag.php

学生支援：ディーキン大学、オーストラリア

着目点:

- » オンライン支援サービスへのアクセス：学生は、オンライン学習の進捗に合致した、適切な支援サービスが利用できているか。
- » オンラインコミュニケーションのチャネル：オープンで利用しやすいチャネルとなっているか。チャネルはコミュニケーションのために活用されているか。コミュニケーションは、定期的に適切な目的のために行われているか。
- » 支援に関するアクセス可能で明確なオンライン情報：アクセスが簡単で利用しやすい支援となっているか。

学生の体験：

- » 有意義で本格的なインタラクションや興味深いコラボレーションの機会を反映されたオンラインコースの設計や評価
- » 学生と教職員、および学生同士の交流を可能にするオンラインツールやプラットフォーム

ディーキン大学がクラウドキャンパスコース入学前の学生を対象として提供する、無料オンライン学習コースも貴重なリソースです。学生は最初の2週間のコースの修了後、学習を継続してディーキン大学から大学院の学位を取得する道も選択できます。

ディーキン大学はまた、オンライン学習を選択した人々の経歴も掲載しており、（特に大学院で専門職の学位を取得した人々が）仕事と家庭をどの様に両立させていたか、学習したコースが修了に必要な柔軟性を十分に備えていたことなどを紹介しています。

出典： www.deakin.edu.au/courses/study-online

領域6：学生の体験

原則

すべての学生に、教職員や他の学生と社会的、そしてアカデミックな交流をする機会が提供されており、学生の体験についてのフィードバックはモニタリングを通じて対応されている。

研究結果

- » オンライン学習・ブレンド型学習において学生が孤立して学ぶ状況は、オンライン・フォーラムやバーチャル・ミーティング、オンライン・チャットルームなど、インタラクティブなグループ活動によって相殺できる。
- » 講師や教員が焦点を当てていない場合も多いが、学生のポジティブな体験は、再び学ぼうとするかどうかを左右する要素になりうる。
- » 学生が教育機関に親近感を感じ他者と関わりを持つためには、帰属意識が不可欠である。
- » オンライン教育が普及する中で、学生にポジティブな体験を与えるよう取り組むことが、選ばれるコースとなる可能性を高める。

着目点

- » コースの設計や評価方法は、グループワークでの作業を通じて学生同士の交流を促すような、各種のインタラクティブな要素を取り入れているか。
- » コース概要には、エンゲージメントの機会に関する情報も含まれており、学生のポジティブな体験を育む内容になっているか。
- » 学生は学びのコミュニティなど、自分の学習以外にエンゲージメントできる機会があることを認識しているか

証拠

- » 参加者のインタラク션을促す活動がコース設計に組み込まれている。
- » 各学生は、他の学生の写真や名前、連絡先にアクセスできる。
- » デジタルプラットフォームは、学生のアカデミックな体験と社会的体験の側面が区別できるよう設計されている。
- » 教育機関とオンライン学生の間で、アップデートやコミュニケーションの送受信が定期的に行われている。

事例研究：領域6

オーストラリアの大学における学生アンケート

多くの教育機関はコース修了時に各種アンケートを実施し、コースにおける学生の体験を調査している。例えばグリフィス大学とスウィンバーン大学では、コースの各ユニット修了時に学生へのアンケート調査を実施し、調査結果を継続的改善の仕組みに取り入れ、教授方法や学習の改善、コース設計や実施面でのイノベーションに活かしている。

出典: swinburne.edu.au/student/surveys intranet.secure.griffith.edu.au/work/surveys/student-surveys

事例研究：領域5

ディーキン大学および学生の体験

ディーキン大学で期待するもの：高い質

- 一貫した高い質構造、信頼のおける評価に対するタイムリーなフィードバック
- 高いプロダクション・バリューとエンゲージメントを促す学習リソース：
ユーザーのネット環境に応じ、複数のモードで提供。
- スクリーン上で顔を合わせながら参画する学習や交流のためのコミュニティ。
- 全ての学生を対象とする、積極的なコーチングやアドバイス。
初期のユニットでは特に高い頻度で実施。
- コースの開始・進捗のため、複数の方法や回数を提供
- 包括的なアナリティクスに基づいた、学生の活動や進捗を示す質の指標
- 学生の成功を支えるため、教職員の時間を最適化して利用するユニットチーム

Deakin University CRICOS Provider Code: 00113B



ディーキン大学は、オンラインの学生に十分な支援を提供するためのリソースを数多く用意しています。例えば、ディーキン大学ではスチューデント・サクセス・コーチが採用されており、コーチは定期的にスカイプやメールで学生と接し、支援を行います。

ディーキン大学はまた、オンラインのウェビナーによるPeer Assisted Study Sessions（PASS）、スタディ・メンター、学生支援職員などを通じての学生支援も提供しています。

出典：deakin.edu.au/courses/study-online

領域7：カリキュラム設計

原則

堅実な教育方針に基づいてカリキュラムが設計されており、首尾一貫したインタラクティブな学習体験の提供を通じて、資格レベルに相当する学習成果に沿った知識や技能の育成が行われている。

研究結果

- » オンライン教育やブレンド型教育のプログラム設計では、教育の視点から堅牢なカリキュラム設計を行うと同時に、統一された学習リソースやアクティビティを構成するため、技術的専門知識を応用する必要がある。
- » オンライン学習のプログラム開発では、オンラインアプリケーションやツールキットなど支援ツールが数多く開発されているが、プログラムが具体的な学習成果につながるよう設計されていることが肝要である。
- » カリキュラムの設計担当者は、教育上の論理的根拠をもってカリキュラムの各要素を設定しなければならない。設計にあたっては、学習成果に向けての育成やその実証に紐づけられたかたちで、学習のアクティビティやアセスメントがバランスよく設けられていなければならない。
- » オンライン学習・ブレンド型学習プログラムの設計では、講師がファシリテーションを務めるディスカッションやコラボレーションを意識的に組み込む必要がある。
- » 図5は、現在の研究結果について考慮すべき点を示している。

着目点

- » 教育機関はコースウェア開発のための明確な基準を持っているか。
- » 各学習単位は、プログラムの学習成果と資格レベルを念頭に置いて設計されているか。

- » カリキュラム設計は技術的な設計だけでなく、教育的なアプローチを反映しているか。
- » オンライン学習・ブレンド型学習のカリキュラムには、革新的でインタラクティブかつ興味深い機能が組み込まれているか。
- » カリキュラム設計は統一されたものになっているか。コースの期間を通じて、専門分野のスキルと一般的なスキルを段階的に開発するものとなっているか。

証拠

- » オンライン教育・ブレンド型教育の開発におけるカリキュラム設計の役割が、教育および学習計画の中で明確にされている。
- » 新規のコースは、コースウェア開発プロセスや質基準を用いて開発されている。
- » コース開発委員会（または同様の委員会）には、オンライン・ブレンド型プログラムの質を効果的に評価できるメンバーがいる。
- » 企業や産業の代表者と意見交換を行い、労働力に対するニーズや期待に応えられるプログラム設計となっている。
- » カリキュラムは、外部の専門家によってレビューされ、設計上の問題点を明らかにするための試験運用が行われている。フィードバックを捕捉し、必要に応じてプログラムに反映されている。

学生に対し、定期的にプログラムの質に関するフィードバックを求めている。コースの改定にフィードバックが反映されている。図5：検討すべき点

図5：現在の研究結果

優れた設計のブレンド型教育プログラムは、以下の効果をもたらす：

- » 学生の学習成果を高める
- » すべてオンラインのコースに比べ中途退学率が低い
- » 柔軟性があり、様々な学生のニーズに対応できる
- » オンライン教育と従来の対面授業の最良の要素が最適化されている
- » ワークプレイスメントやラボワークなど、実践的な体験型学習を取り入れている

事例研究：領域7

技術を用いたカリキュラム設計の改善（JISC、英国）

JISCは、高等・継続教育、技能教育セクター向けのデジタルサービスやソリューションを手懸ける、英国の非営利団体です。JISCはカリキュラム設計など、特定の領域で活用できる様々なリソースを提供し、教育機関による技術支援学習（Technology Enhanced Learning）の導入や機能拡張を支援しています。

JISCは、英国の教育、学習、研究におけるデジタル技術の採用と使用を奨励し、高等教育セクターを支援しています。JISCのビジョンは、英国を世界で最もデジタル化が進んだ高等・継続教育、研究セクターを有する国にすることです。JISCは、英国の大学やカレッジに、共有のデジタルインフラとサービスを提供しています。

出典：www.jisc.ac.uk/guides/using-technology-to-improve-curriculum-design

領域8：アセスメントと完全性

原則

堅様々な方針や仕組みが用意されており、オンライン学習の学生に評価課題が明確に伝えられ、効果的にモデレーションされ、学生にはプログラムの学習成果を示す機会が与えられている。

研究結果

- » オンラインでの協働的な活動やグループプロジェクトが評価の対象となっていない場合、学生の参加率は低下する。
- » 評価のガイドラインは、オンライン特有の環境や、グループダイナミクスのための交流や意見交換を管理し、支援するものでなければならない。
- » 不正行為を最小限に抑えるため教育機関は、顔認識ソフトウェアやキーストローク識別機能などの仕組みを開発している。
- » 評価課題の提出プロセスには盗用検出が含まれている。
- » ブレンド型学習では、集中的なキャップストーンプログラムや職場体験を組み込むことができる。
- » オーラル・コミュニケーションや対人能力など、専門分野技能や一般技能は、オンラインや・ブレンド型教育の環境で育成できる。

着目点

- » 教育機関は、学問分野に特化した技能や一般技能など、具体的な学習成果に対する幅広い評価を行っているか。
- » 評価は、学習成果を累積的に発展させるものとなっているか、また学生に学習成果を見せる機会を提供しているか。
- » 評価のルーブリックは、プログラムの学習成果や卒業生の知識・技能とマッピングされているか。

- » 試験委員会（または同等の委員会）は、オンラインの学生のパフォーマンスデータを他のコホートと関連づけ考慮しているか。
- » コース開発委員会（または同等の委員会）は、オンライン学習の評価を承認しているか。

証拠

- » オンラインの評価は、学術的完全性、モデレーション、進捗など含み、方針によって規定されている。
- » 評価はプログラムの学習成果や資格レベルに呼応したものとなっている。
- » 評価の性質と評定基準に関する明確なガイドラインが学生に提供されている。
- » パフォーマンスデータからオンライン教育・ブレンド型教育の学生が適切な習熟度に到達していることが示されている。
- » 教育機関は、評価に関する学生からのフィードバックや苦情に対応している。
- » 評価の完全性を管理、維持するための方針や手順が導入されている。
- » 継続的な改善を目的とする評価データのモニタリングや評価のため、厳格なプロセスが実施されている。
- » 評価活動では、学習技術のケイパビリティが活用されていること。

事例研究：領域8

評価の同等性

スウィンバーン工科大学（オーストラリア）

オーストラリアのメルボルンにあるスウィンバーン工科大学は、3万人以上の学生を擁し、世界の大学の中で上位3%にランク付けされています。同大学では学生の25%がSwinburne Onlineでオンライン学習をしています。

Swinburne Onlineの卒業生は、対面授業の学生と同じ試験合格証を受領し、同じ学習成果で測定されますが、大学は、オンラインや対面式の教育提供手段を問わず一貫した応答性と適応性を確保するため、評価の同等性に関するガイドラインを作成しました。このガイドラインは、カミングの比較可能性フレームワーク（2003年）を参考に作成されたもので、対面授業とオンライン教育の間で評価や評価課題に同等性が得られるよう、体系的なアプローチを提供しています。

評価同等性ガイドライン

教育の提供手段のコンテキストに合わせ評価課題は調整可能ですが、以下は対面・オンラインを問わず同一のものでなければなりません：

1. 評価課題の目的 - 形成的評価・総括的評価
2. 各評価課題で評価される学習成果
3. 発散的思考や集中的思考の要件
4. 各評価課題の重み付け
5. 各評価課題の単語数制限
6. 評価課題での文献使用要件
7. 評価課題を個人で行うか、チーム/グループで行うか
8. 評価課題の実行可能性（例：オーストラリア資格フレームワークAQFレベル）

出典： www.swinburneonline.edu.au/how-online-study-works

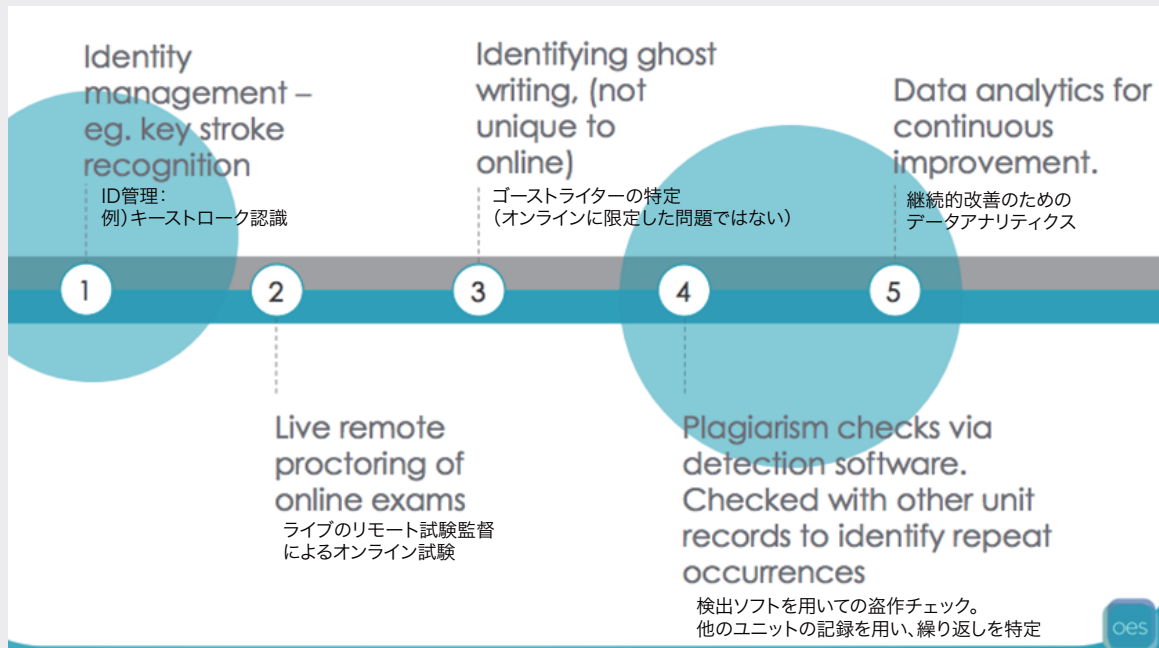
リソース：領域8

オンライン教育サービス（OES）、オーストラリア

OESは、「成人教育における学生重視の新たなアプローチで、オンライン教育産業に一石を投じ、これを前進させるため」に設立されました。

国内の多様な高等教育機関と提携し、OESは、「従来の対面授業では対応できないニーズを持つ学生に、興味深い学習体験をもたらすための専門知識を提供」します。

評価と完全性



オンライン試験サービス

OESはオンライン試験サービスを提供しています。このサービスは、試験監督を中継で行うオンライン試験で、地方や遠隔地の学生が都合の良い場所からログインし、試験を完了させることができます。「学生は試験会場に出向く必要がなく、監督者も不要です。全てオンラインで完結します。」

出典：www.oes.edu.au

領域9：学習成果

原則

オンライン教育の学生の学習成果は、対面式の学生と同等であり、同じ資格レベルが与えられ、評価も厳格に行われる。

研究結果

- » 学習成果とは、学生に習熟が期待される知識や技能、そして様々な状況で応用できる能力を記述したステートメントである。
- » オンライン教育・ブレンド型教育の学習成果は、対面式の学生の学習成果と同等であるべきである。
- » 学習成果を達成する上で、オンライン教育・ブレンド型教育に固有の障壁はないことが、数多くの研究で示されている。
- » 質保証の方針と実践において、教育機関のインプットを質の指標として重視する考え方ではなく、学生や卒業生の学習成果に主眼をおく方向に世界的な変化が進んできた。
- » 教育の提供手段にかかわらず、学習成果の策定は、国あるいは地域の資格フレームワークを基盤としている。
- » オンライン教育・ブレンド型教育の学習成果を測定することで、ベンチマーク比較や継続的改善の実践が容易になる。

着目点

- » オンライン教育・ブレンド型教育の学習成果は明確で、アクセスしやすく現実的か？
- » 学習成果は、入学希望者、在学生、教職員に伝えられているか。
- » 学習成果は、資格フレームワーク、関連の基準、専門資格の認定要件、労働力のニーズに沿ったものとなっているか。

- » オンライン教育・ブレンド型教育の学習成果は、専門分野の知識だけでなく問題解決やコラボレーション、コミュニケーション、分析、ICTスキルなど、一般的な技能も網羅しているか。
- » 策定された学習成果は、カリキュラムや評価でも明確になっているか。
- » 評価課題は各学習成果に紐づけられているか。

証拠

学生向けの情報やオンライン・ハンドブックでプログラムの学習成果が提供されている。

- » コース開発や評価に関する方針、文書、プロセスから、学習成果がどのように策定されたのかが明らかである。
- » コースの内容と評価は、フレームワークや基準、その他の要件を踏まえたものとなっている。
- » 卒業する学生が、プログラムの学習成果を達成していることを確認するため、学生のパフォーマンスデータを収集、分析、検証している。
- » オンライン教育・ブレンド型教育の学生のパフォーマンスや進捗を確認するため、対面式の学生とのコホート分析が行われている。
- » セクター全体で一貫した学習成果を実現するため、外部の類似のプログラムとのベンチマーク比較が行われている。
- » 卒業生や雇用主のフィードバックから、就職、専門技能や資格、継続教育の面でポジティブな学習成果が明確である。

図6：バーチャル教室における「実社会」のスキルから、オンライン教育の構成要素として職業統合学習（work-integrated learning）をどの様に設けられるかが詳細に示されている。

事例研究：領域9

日本の統合質保証システムと学習成果

日本では、独立行政法人大学評価・学位授与機構（NIAD-UE）が「大学評価・認証基準」に基づいて大学を評価しています。10個の基準では、オンライン学習や通信教育について教育機関の運営の観点から別のものとして見なさず、同じ基準のフレームワークで評価が可能です。例えば、基準6 の学習成果では、対面式とオンライン教育の区別はされていません。

学習成果（NAID-UE:高等教育に関する質保証関係用語集より）

学生が、授業科目、プログラム、教育課程などにおける所定の学習期間終了時に獲得し得る知識、技術、態度などの成果を指す。「教員の視点にたった教育（teacher-centered education）」から「学生の視点にたった教育（student-centered education）」への転換が国際的な流れとなっている今日、大学は、学生が習得すべき学習成果を明確に示すことにより、「何を教えるか」よりも「学生がそのカリキュラムによって、どのような能力が身に付くのか」が重要視されている。具体的で、測定可能な学習成果を定めることが求められ、学習成果の評価（アセスメント）と結果の公表を通じて、大学の社会に対する説明責任が高まることが期待されている。わが国の大学が社会の発展を支える人材を育成するという社会的使命を十分に果たす上で、学生が専攻分野にかかわらず共通に身に付けるべき学習成果を明確に示すとともに、適切な測定方法により学習成果を把握し、学習成果を重視した評価を実施すること、さらに、学習成果の達成を目指した教育内容・方法の充実改善を図ることが求められている。

訳注：現大学改革支援・学位授与機構（NIAD-QE）

出典：Glossary of Quality Assurance in Japanese Higher Education

図6：技能開発

コースの構成やアセスメントなど様々な設計上の選択肢を活用することで、オンライン学習・ブレンド型学習の学生に就業体験や職場体験、口頭でのコミュニケーション能力を開発する機会を提供できます。

例：

- » ブレンド型学習では、プログラムに就業体験、研究プロジェクト、キャップストーンプロジェクトなどで、対面式の項目を組み込むことができる。
- » オンライン学習の環境では、講師と一緒に遠隔教育の学生が面接スキル、口頭コミュニケーションスキル、プレゼンテーションスキルなどの開発や、コラボレーション活動に取り組むことが可能。
- » 学生は理論関連の項目をオンラインで学び、応用に関する項目は、対面で行うか、職業統合学習の項目を修了することで学ぶことができる。例えば、Swinburne Onlineの教育学の学位は、「柔軟性の高いオンラインでの理論の学習と、教育実習による実践的な経験を組み合わせ」受講することができる。

出典：swinburneonline.edu.au/online-courses/education

まとめ

本ツールキットは、オンライン教育の質保証フレームワークの開発を検討する APEC 諸国に、その出発点を提供するものです。さらにオンライン教育の質保証において、地域協力のプラットフォームとしても利用できます。本ツールキットでは、質保証機関がオンライン教育・ブレンド型教育プログラムを評価する際に活用できる、様々な基準を設定しています。

本ツールキットにより、報告やアセスメントにおける重要なエビデンスベースが提供されるため、統合的アプローチで質保証を実践する教育機関は、本ツールキットの基準を用いることで主要業績指標を向上し、オンライン教育の水準を引き上げることが可能となります。つまり本ツールキットは、教育機関によるオンライン教育・ブレンド型教育プログラムの質の測定に資するものです。

本ツールキットは、国際的な教育セクターで質の文化を推進させるために開発されました。質の文化を確立し、発展させるためには、国と教育機関が一様に質保証の仕組みを定義し、実施する必要があります。

その実現のためには、以下の重要な問いに答える必要があります：

- » 質保証フレームワークに、オンライン学習の質保証をどのように統合するのか。
- » 質保証機関は、オンライン学習プログラムをどのように評価するのか。
- » 教育機関は、オンライン学習プログラムのベンチマーク比較をどのように行うのか。



文化とは、一連の仕組みだけで醸成されるものではありません。リーダーが創造し、組織が実践する考え方が文化となるのです。本ツールキットは、リーダー同士の議論を喚起する問いを投げかけるものです。

次のステップは、リーダーたちが、自らのニーズに合致する回答を導き出していくことです。

参考文献

- ACODE 2014 Benchmarks for technology enhanced learning Canberra http://www.acode.edu.au/pluginfile.php/579/mod_resource/content/3/TEL_Benchmarks.pdf
- Altbach P G, L Reisberg et al 2009 Trends in global higher education: Tracking an academic revolution, Boston College, Center for International Higher Education
- Allen I E and Seaman J 2013 Changing course: Ten years of tracking online education in the United States, Babson Park MA, Babson Survey Research Group
- APQN 2008 Quality assurance arrangements in higher education in the broader AsiaPacific region, Australia: Asia Pacific Quality Network http://www.aei.gov.au/AEI/GovernmentActivities/BrisbaneComunique/Quality_Assurance.pdf
- Asian Development Bank 2011 Higher education across Asia: An overview of issues and strategies, Mandaluyong City: Asian Development Bank
- ASEAN University Network 2014 ASEAN Credit Transfer System, retrieved 17 March 2014 <http://acts.ui.ac.id/>
- Australian Communications and Media Authority 2015 Communications report 2013–14 series: Report 1 – Australians' digital lives, Canberra: Commonwealth of Australia.
- Basak S, Wotto M, Bélanger P 2016 A Framework on the Critical Success Factors of E-Learning Implementation in Higher Education: a review of the literature
- Bernard et al 2004 How Does Distance Education Compare to Classroom Instruction? A Meta-Analysis of the Empirical Literature
- Christensen C M, Horn M B, Caldera L and Soares L 2011 Disrupting College: how disruptive innovation can deliver quality and affordability to postsecondary education, Center for American Progress, Innosight Institute <http://eric.ed.gov/?id=ED535182>
- Cummings R J 2003 Equivalent assessment: Achievable reality or pipedream, paper presented at the ATN 2003 Education and Assessment Conference, Adelaide
- Dziuban C, Hartman J and Moskal P 2004 Blended Learning, EDUCAUSE Center for Applied Learning <http://net.educause.edu/ir/library/pdf/ERB0407.pdf>
- Eaton J S 2016 Quality, E-Learning and Alternative Providers of Higher Education in Cross-Border Higher Education and Quality Assurance Rosa M J, Sarrico C, Tavares O & Amara A (eds) Issues in Higher Education series, Palgrave McMillan UK
- ESG 2015 Standards and Guidelines for Quality Assurance in the European Higher Education Area, Brussels
- Edgecombe N, Cormier M, Bickerstaff S, Barragan N 2013 Strengthening developmental education reforms: 証拠 on implementation efforts, Scaling Innovation Project, CRCC Working Paper No. 61
- E-learning Quality Model The Swedish National Agency for Higher Education
- Ewan C 2016 Salient issues for TEQSA arising from 'Higher Education Standards in a Disaggregated Learning Environment' unpublished excerpt from OLT Report May 2016
- Gonzalez-Pose P 2015 Global perspectives on the recognition of higher education qualifications, presentation at the Council for Higher Education Accreditation International Quality Group annual meeting, Washington DC
- Grifoll J, Huertas E et al 2010 Quality Assurance of E-learning, Helsinki, Finland
- Howland J L, Jonassen D H and Marra R M 2012 Meaningful learning with technology Pearson, NJ
- Huisman J, Adelman C, Hsieh C C, Shams F and Wilkins S 2012 'Europe's Bologna process and its impact on global higher education' in Deardorff D K, de Wit H, Heyl J D & Adams T (eds) The SAGE Handbook of International Higher Education Thousand Oaks: Sage Publications (pp. 81–100)
- Iwata J 2013 'A new era of learning efficacy on a planet of smarter systems' in Barber M and

- Rizvi S (eds) *Asking more: The path to efficacy* Pearson, London pp. 23–27
- Jenkins J 2000 'Training teachers for a connected environment' in *Open Praxis* 2 (pp. 8–14)
- Jung I S 2005 'A review of policy and practice in virtual education: In the context of higher education in S. Korea' in *Educational Studies* 47 (pp. 111–123)
- Jung I and Latchem C 2012 *Quality assurance and accreditation in distance education and e-learning*
- Hanna D 2003 'Building a leadership vision: 11 strategic challenges for higher education' *Educare Review*, July/August
- Khan B H 2001 'A framework for Web-based learning' in B H Khan (Ed) *Web-based training* Englewood Cliffs, NJ: Educational Technology Publications
- Kirkpatrick, D L 1994 *Evaluating training programs: the four levels*, San Francisco, Berrett-Koehler
- Kristoffersen D 2015 *Regulation and quality assurance of online education*, paper given at the Educating Online in South East Asia regional workshop, Kuala Lumpur
- Lapsley R et al 'Is Identical Really Identical? An Investigation of Equivalency Theory and Online Learning' in *Journal of Educators Online* 5.1 (2008): n1
- Latchem C 2012 *Quality assurance toolkit for open and distance non-formal education*, Commonwealth of Learning
- Latchem C 2016 *Open and Distance Learning Quality Assurance in Commonwealth Universities: a report and recommendations for QA and accreditation agencies and higher education institutions*, Commonwealth of Learning
- Lim C P, Chai C S and Churchill D 2010 *Leading ICT in Education Practices: A Capacity-Building Toolkit for Teacher Education Institutions in the Asia-Pacific*, Microsoft, Singapore
- McNaught C 2001 'Quality assurance for online courses: from policy to process to improvement?' proceedings of Meeting at the crossroads, Ascilite, Melbourne 2004: www.ascilite.org.au/conferences/melbourne01/pdf/papers/mcnaughtc.pdf
- Malaysian Qualifications Agency 2013 *Code of practice for open and distance learning* Petaling Jaya
- Miller G, Benke M, Chaloux B, Ragan L and Schroeder R 2014 *Leading the e-learning transformation of higher education: meeting the challenges of technology and distance education*, Sterling, Virginia: Stylus Publishing, LLC in association with the Sloan Consortium
- Murray J 2013 *Quality Assurance in Qualifications Frameworks: an issues paper*, Quality and Qualifications Ireland and the European Commission
- OECD 2012 *Education at a Glance*, OECD Publishing. http://dx.doi.org/10.1787/eag_highlights-2012-en
- Oliver, R 2001 *Assuring the Quality of Online Learning in Australian Higher Education* in Wallace M, Ellis A and Newton D (eds) *proceedings of Moving Online II Conference*, Lismore: Southern Cross University (pp. 222–231)
- Ossiannilsson E 2012 *Benchmarking e-learning in Higher Education: lessons learned from international projects*, doctoral dissertation, University of Oulu Graduate School, University of Oulu, Finland: <http://herkules.oulu.fi/isbn9789526200415/isbn9789526200415.pdf>
- Ossiannilsson E, Williams K, Camilleri A F and Brown M 2015 *Quality Models in Online and Open Education around the Globe: State of the Art and Recommendations*, ICDE Report Series
- Redpath, L 2012 'Confronting the Bias Against On-Line Learning' in *Management Education Academy Of Management Learning and Education*, 11(1) (pp. 125–140)
- Rekkedal, T and Qvist-Erksen, S 2004 'Student Support – a Critical Factor for Success' in *Design and Evaluation of an Integrated Student Support System for E-learning*
- Salmon G, 2014 'Learning Innovation: A Framework for Innovation' in *European Journal of Open, Distance and e-Learning* vol. 17, no. 2

Scriven, Michael 1991 Evaluation Thesaurus, Sage Publishing, USA

Spratt C, Weaver D, Maskill L, and Kish K, 2003 Online Pedagogy and the Challenges for Academic Staff Development, published online at http://www.monash.edu.au/groups/flt/eet/full_papers/spratt.pdf

Statutory Quality Assurance Guidelines for Flexible and Distributed Learning (White Paper) 2016 Quality and Qualifications Ireland

Stufflebeam, Daniel L and Zhang G 2017 The CIPP Evaluation Model: How to Evaluate for Improvement and Accountability, Guilford, USA

TEQSA Information Sheet: eLearning and compliance with the Threshold Standards <http://www.teqsa.gov.au/sites/default/files/TEQSAeLearningInformationSheet.pdf>

Teay S 2009 Quality Performance Management in Higher Education

The OLC Quality Scorecard Online Learning Consortium (former Sloan-C) US

United Nations 2010 The Millenium Goals: <http://www.un.org/millenniumgoals>

UNESCO 2016 Blended Learning for Quality Higher Education: Selected Case Studies on Implementation from Asia-Pacific [http:// bangkok.unesco.org/content/blended-learningquality-higher-education-selected-case-studies-implementation-asia-pacific](http://bangkok.unesco.org/content/blended-learningquality-higher-education-selected-case-studies-implementation-asia-pacific)

UNESCO 2010 Education for all <http://www.unesco.org/en/efa/>

UNESCO 2014 Education Systems in ASEAN+6 Countries: A Comparative Analysis of Selected Educational Issues

Walsh P 2016 'Quality Assurance of Crossborder Higher Education – a case for collaboration between national quality agencies' in Cross-Border Higher Education and Quality Assurance, Rosa M J, Sarrico C, Tavares O and Amara A (eds) Issues in Higher Education series, Palgrave McMillan UK

Watkins R and Schlosser C 2000 'Capabilitiesbased educational delivery units: beginning a professional dialogue' in American Journal of Distance Education 14(3) (pp. 34–47)

Weber J M and Lennon R 2007 'Multi-course comparison of traditional versus web-based course

delivery systems' in Journal of Educators Online 4(2)

Westman P 2009 'ELQ report: Policy Issues for Quality Assurance Agencies' National Agency for Higher Education (NAHE) Sweden, ENQA Workshop Quality Assurance of E-Learning

Woodhouse D, Keynote Address: 'Quality: Making a difference' <https://herdsa.org.au/system/files/Woodhouse.pdf>

Yelland R 2011 Academic Ranking and Quality Assurance in Online Education, Directorate for Education Presentation, Barcelona, OECD

Ziguras C and McBurnie G 2011 'International student mobility in the Asia-Pacific: from globalization to regional integration?' in Marginson S, Kaur S and Sawir E (eds) Higher Education in the Asia-Pacific, Strategic Responses to Globalization, Dordrecht: Springer